Kisaki S, Suzuki T.（Poster）Usefulness of the triple coaxial systems using steerable high-flow microcatheter as a second catheter. CIRSE（The 34th Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe Annual Congress）2019. Barcelona, Sept.

9）鈴木隆之，宗友洋平，松井　洋，山添真治，増田耕一，木佐木俊輔，長谷川靖晃，蓮見　淳，加納瑠為，蘆田浩一.（ポスター）多発肝病変に対し TJLB を行い組織診断に成功した症例．第 55 回日本医学放射線学会秋季臨床大会．名古屋，10 月.

10）山内英臣，馬場　亮，池田耕士，尾尻博也.（口頭）進行上顎洞癌 RADPLAT 後の画像所見に関する検討．第 32 回頭頸部放射線研究会．名古屋，10 月.

11）渡辺　憲，内山眞幸，五十嵐隆朗，尾尻博也.（ポスター）甲状腺癌の手術時に断端陽性となった症例に対する I-131 内用療法の初回投与量と無再発生存期間の検討．第 59 回日本核医学会学術総会．松山，11 月.［核医学 2019；56(Suppl.)：S182］

12）小林雅夫，堤　由希，森川碧子，木嶋良和，中村　弥，青木　学.（ポスター）当院における頸部食道癌への IMRT を使用した化学放射線治療の初期経験．日本放射線腫瘍学会第 32 回学術大会．名古屋，11 月.

13）Shiraishi M, Igarashi T, Ogiwara S, Tokashiki T, Ojiri H.（Poster）Differentiation of hand small joints arthropathy in patients with rheumatoid arthritis and psoriatic arthritis；multimodality imaging characteristics. RSNA 2019（105th Scientific Assembly and Annual Meeting of the Radiological Society of North America）. Chicago, Dec.

14）Fukuda T, Tokashiki T, Kawakami R, Fukasawa N, Matsuura S.（Oral）A case of interdigital intravascular papillary endothelial hyperplasia. 第 31 回骨軟部放射線研究会．東京，2 月.

## 消　化　器　外　科

講座担当教授：矢永　勝彦　消化器外科
教　　授：吉田　和彦　消化管外科
教　　授：三森　教雄　消化管外科
教　　授：岡本　友好　肝胆膵外科
准　教　授：石田　祐一　肝胆膵外科
准　教　授：河野　修三　消化管外科
准　教　授：三澤　健之　肝胆膵外科
准　教　授：小川　匡市　消化管外科
准　教　授：西川　勝則　消化管外科
准　教　授：高橋　直人　消化管外科
准　教　授：藤岡　秀一　肝胆膵外科
准　教　授：諏訪　勝仁　消化管外科
准　教　授：衛藤　謙　消化管外科
准　教　授：矢野　文章　消化管外科
准　教　授：薄葉　輝之　肝胆膵外科
准　教　授：柳澤　暁　肝胆膵外科
（佐々木病院に出向中）
准　教　授：高山　澄夫　消化管外科
（益子病院に出向中）
准　教　授：松田　実　肝胆膵外科
（春日部中央総合病院に出向中）
准　教　授：中林　幸夫　肝胆膵外科
（川口医療センターに出向中）
准　教　授：田辺　義明　肝胆膵外科
（新百合ヶ丘総合病院に出向中）
准　教　授：保谷　芳行　消化管外科
（町田市民病院に出向中）
准　教　授：河原秀次郎　消化管外科
（西埼玉中央病院に出向中）
准　教　授：田中　知行　肝胆膵外科
（東急病院に出向中）
准　教　授：脇山　茂樹　肝胆膵外科
（町田市民病院に出向中）
講　　師：二川　康郎　肝胆膵外科
講　　師：柴　浩明　肝胆膵外科
講　　師：坪井　一人　消化管外科
講　　師：松本　晶　消化管外科
講　　師：三浦英一朗　消化管外科
（神奈川県リハビリテーション病院に出向中）
講　　師：水崎　馨　肝胆膵外科
（三島中央病院に出向中）
講　　師：楠山　明　消化管外科
（麻生総合病院に出向中）
講　　師：梶本　徹也　消化管外科
（富士市立中央病院に出向中）
講　　師：鈴木　俊雅　消化管外科
（富士市立中央病院に出向中）
講　　師：渡部　通章　消化管外科
（厚木市立中央病院に出向中）
講　　師：小林　徹也　消化管外科
（新百合ヶ丘総合病院に出向中）

講　　師：野尻　卓也　　肝胆膵外科
（守谷慶友病院に出向中）
講　　師：石山　　哲　　消化管外科
（葛西昌医会病院に出向中）
講　　師：坂本　太郎　　肝胆膵外科
（佐久医療センターに出向中）
講　　師：星野　真人　　消化管外科
（AOI 国際病院に出向中）

## 教育・研究概要

### Ⅰ．消化管外科

1．上部消化管外科

1）食道疾患

進行食道癌に対して 5-FU＋CDDP 術前化学療法へのドセタキセル上乗せ効果ならびに抵抗性を検討している。また，術中の整体運動評価として神経刺激装置を，胃管の血流評価にサーモグラフィーを，使用し術後の合併症（狭窄，縫合不全，反回神経麻痺）との関連性を検討している。その他，周術期における体組成の変化が術後合併症と予後に与える影響の検討も開始した。

アカラシア患者の胸痛は術後も高頻度に残存するため臨床上の課題である。われわれはアカラシアの胸痛に対する治療法として食道筋層全周切開法を考案し，前向き試験によりその有効性を検証している。

2）胃疾患

早期胃癌に対するセンチネルリンパ節ナビゲーション＋縮小手術の有用性の検討を続けている。蛍光赤外線内視鏡と放射性同位元素を用いたセンチネルリンパ節検索法を用い，根治性と機能温存を目指している。胃癌のリンパ節転移メカニズムを過去の SM 胃癌症例を用いてリンパ管の免疫染色を行い，リスク因子を再検討している。胃切除後症候群のリスクファクターならびに術式別の検討も重要な課題で，術後 1 年以上経過した各種胃切除症例に対して $C^{13}$ を用いた呼気試験を行い評価している。進行胃癌を中心に各種免疫染色および RT-PCR を行い転移に関するリスク因子を探索している。食事療法・運動療法に効果を示さない BMI35 以上の肥満患者に対する減量手術（腹腔鏡下胃スリーブ状切除術）を行っている。超重症肥満に対する術式の検討と術後減量不成功症例の検討を行っている。

2．下部消化管外科

消化器内科と合同でカンファレンスの開催を行い，個々の大腸癌症例に対して集学的治療を検討している。大腸癌データベースを用いて術式や合併症の検討，病理組織学的因子の検討を行っている。大腸癌手術検体から cDNA ライブラリーを作成し，構築した cDNA ライブラリーと大腸癌データベースを活用し，今後の基礎研究の基盤を整えていく。Stationary 3D-manometory を用いた肛門機能検査を開始し，肛門疾患のみならず術後機能障害も含めた総合的な治療に取り組むことを目指している。

生化学講座（吉田清嗣教授）との共同研究で大腸癌の進展・増殖に関与すると考えられる細胞内シグナル分子の発現解析を行っている。現在，アポトーシスの誘導や細胞周期制御に関与している DYRK2 の解析を行っており，過去のデータベースと比較し，DYRK2 とその関連遺伝子の発現の関連を評価する。さらに DYRK2 の転写制御のメカニズムの解明を目指すことで，腫瘍抑制因子としての DYRK2 の発現と腫瘍の増殖との関連の解析を進めている。同時に，大腸癌手術検体を使用して三次元培養を行い，オルガノイドと呼ばれる組織の作成を試みている。作成したオルガノイドを用いて，薬剤効果発現のメカニズムについて明らかにする基礎研究を予定しており，適切な薬剤の選択を治療前に行う方法を開発することを目標としている。

近年，腫瘍内に自己複製と腫瘍を構成する様々な系統のがん細胞を生み出す多分化能を持つ細胞（がん幹細胞，Cancer stem cells：CSCs）が存在し，抗がん剤や放射線治療に対する抵抗性や，がんの再発・転移に関与する原因の一つとして考えられている。マウス T 細胞リンパ腫の解析から同定されたがん原遺伝子である Pim-1 及びそのファミリー遺伝子に注目し，大腸がんにおける機能を，特に幹細胞性獲得機序に焦点を当て解析をしている。

### Ⅱ．肝胆膵外科

生体肝移植術は 2007 年から 2019 年までに ABO 血液型不適合移植 4 例を含む計 24 例を施行した。術後経過は良好で，ドナーは全例術前状態に回復し，レシピエントは在院死亡 0 を達成できている。今後も症例を蓄積し，高レベルの移植医療体制の維持・教育に努め，さらなる治療成績の向上を目指す。現在は急性肝不全症例への適応拡大の準備中であり，また脳死移植施設認定を目指している。

附属病院での初発肝細胞癌に対する肝切除後の治療成績は全国調査に比べ良好である。手術方法の工夫，周術期管理の強化，再発時の有用な治療法の検討などによりさらなる治療成績向上を目指す。また，手術適応とならない肝細胞癌に対しても，分子標的薬や局所療法など集学的治療を駆使し，治療成績の向上をはかる。

大腸癌肝転移に関しては，切除可能例には積極的

な切除を行い，切除不能例には切除への conversion を念頭に置いた化学療法を行っている。肝両葉多発病変に対しても，化学療法で腫瘍縮小後に肝切除量を減らした手術や二期的肝切除等で治療成績向上をはかっている。

肝切除後の血栓性合併症（門脈血栓症，静脈血栓塞栓症）は致命的となり得るため，発症リスク因子，有用な予防法，治療法の検討を行っている。

手術の低侵襲化に関しては，腹腔鏡手術の適応拡大や治療成績の向上をはかり，これまでの肝切除（部分切除・外側区域切除），膵体尾部切除（低悪性度膵腫瘍）の症例も蓄積され，2016 年度より保険収載された膵頭十二指腸切除，悪性疾患に対する膵体尾部切除，肝部分切除・外側区域切除以外の肝切除についても適応症例を漸次増やしつつある。また内視鏡外科技術認定医取得を目指した教育を行っている。

生体肝移植手術や肝切除の際に 3D 画像解析ソフトによる術前シミュレーションを行い，安全かつ根治性の高い手術計画の下に肝切除を行っている。ICG 蛍光を用いた新しい手術ナビゲーションシステムを導入しさらなる発展を目指す。第三病院では高次元医用画像工学研究所と共に開発した手術ナビゲーションシステムを開腹および腹腔鏡下の肝胆膵外科領域の手術に使用し，より安全かつ正確な手術を目指し，研究をすすめている。

膵・胆道癌に対しては手術と化学療法の組み合わせが治療成績向上に重要であるため，癌の進行度に応じて，術前・術後に化学療法を行っている。また，大学院生の基礎研究では膵癌を中心に抗癌剤感受性改善に関する研究を継続して行っている。

胆嚢結石・胆嚢炎に関して，これまで蓄積されたデータの解析により，合併症低減を目指した治療戦略を立てて，治療成績の向上を目指す。また胆嚢ポリープの悪性予測因子の検討を行っている。

肝胆膵外科高度技能専門医修練施設である附属 4 病院と川口市立医療センターの 5 病院で合同肝胆膵データベース（肝細胞癌，転移性肝癌，膵臓癌，胆管癌，胆嚢癌）を作成し，大規模多施設研究としてデータ解析を行い，主要学会での発表，論文作成を行っている。臨床教育では，本年度新たに認定された佐久医療センターを加えた肝胆膵外科高度技能専門医修練施設において専門医取得に向けた修練体制が整備されており，専門医認定者も着実に増えている。周術期管理と高度な肝胆膵手術手技の習得，データ解析により国内外での学会発表，英文論文作成ができるよう指導している。

「点検・評価」

１．消化管外科

１）上部消化管外科

(1) 食道疾患

進行食道癌に対する 5-FU＋CDDP 術前化学療法と手術の標準治療にドセタキセルの toxicity と上乗せ効果の有効群を解析した。食道癌術前の栄養管理における胃瘻の有用性を報告した（Anticancer Res 2019；39(8)：4243-8）。胃管作成の血流評価をサーモグラフィーと ICG 蛍光法で比較検討した（Ann Surg 2020；271(6)：1087-94）。胸痛を伴うアカラシアに対しては従来の Heller と異なるオリジナルの食道筋層全周切開法での治療効果を解析した。

(2) 胃疾患

早期胃癌に対する縮小手術を適切に行うために，センチネルリンパ節理論に基づくナビゲーション手術を報告した。蛍光赤外線内視鏡と放射性同位元素を用いたセンチネルリンパ節検索法を用い，根治性と機能温存を両立すべく検索を行っている。胃癌腹膜再発に対するパクリタキセル腹腔内投与の有効性を多施設共同研究にて明らかにした。胃癌において ZKSCAN3（ZNF306）発現と予後に関して報告した（Anticancer Res 2020；40(1)：81-6）。肥満患者に対する減量手術前後の胃食道逆流症の変化について解析した。

２）下部消化管外科

消化器内科との合同カンファレンスを継続し，大腸癌に対する集学的治療の検討を引き続き行っていく。また，大腸癌データベースを使用し当院における手術合併症への対策とその成果，病理組織学的検討による予後予測因子の同定に関して学会での発表を行い，現在論文化を目指している。

基礎研究として生化学講座（吉田清嗣教授）との共同研究で DYRK2 の解析を行っており，肝転移巣において DYRK2 の発現が低い症例では予後が悪いことを解明し，英語論文化した。大腸癌手術検体を用いて cDNA ライブラリーの作成を継続中であり，さらに並行して大腸癌データベースを活用し，新しい予後予測指標を検索している。

また遺伝子治療研究部（大橋十也教授）との共同研究で転写因子 NF-κB と protease inhibitor である nafamostat mesilate の研究を行っている。直腸癌における化学放射線治療に関して，nafamostat mesilate が放射線により活性化した NF-κB や細胞外基質分解酵素である MMP（Matrix metalloproteinase）の分泌を抑制することで，腫瘍細胞の浸潤・転移能を抑制することを解明し英語論文化した。

２．肝胆膵外科

生体肝移植では100％の成功を維持し，さらに症例数の増加を目指す。また急性肝不全症例へと適応拡大を図る。肝細胞癌の治療では良好な手術成績が達成できている。転移性肝癌に対しては術前門脈塞栓，conversion therapy としての術前化学療法，術中造影超音波，二期的肝切除などを駆使して積極的に肝切除を進める。肝胆膵脾領域の腹腔鏡下手術に積極的に取り組み，今後も症例の蓄積を行なう。肝胆膵外科手術におけるナビゲーションの実用化を目指した研究が引き続き進行している。

外科手術成績の向上の面から，栄養療法や SSI 減少を目指しており，NST（Nutritional Support Team）や Infection Control Doctor，感染制御チームとともに精緻な周術期管理を行い術後合併症予防に努めている。また他施設との共同研究を通して研究面での協力・発展を目指す。今後も基礎教室との連携を広げ，若手外科医に深みのある研究を行なう機会を創出すべく，臨床及び研究システムの整備を進めていく。

附属４病院合同（肝胆膵ではそれに加えて川口市立医療センター）の臨床研究に関して，種々の臨床研究が進んでおり，学会発表の上，原著論文としてまとめていく。

外科感染症に関しては，国内レベルの学会発表はできているが，論文発表は症例報告レベルにとどまっており，今後は優れた臨床プロトコールを元に多施設臨床研究に取り組む必要がある。

## 研　究　業　績

### Ⅰ．原著論文


1）Omura N, Tsuboi K, Yano F. Minimally invasive surgery for large hiatal hernia. Ann Gastroenterol Surg 2019 ; 3(5) : 487–95.

2）Watanabe A, Seki Y, Haruta H, Kikkawa E, Kasama K. Maternal impacts and perinatal outcomes after three types of bariatric surgery at a single institution. Arch Gynecol Obstet 2019 ; 300(1) : 145–52.

3）Matsumoto A, Yuda M, Tanaka Y, Tanishima Y, Yano F, Nishikawa K, Ishibashi Y, Mitsumori N, Yanaga K. Endoscopic gastrostomy for patients with esophageal cancer during preoperative therapy. Anticancer Res 2019 ; 39(8) : 4243–8.

4）Takano Y, Shida A, Fujisaki M, Mitsumori N, Yanaga K. Prognostic significance of ZKSCAN3 (ZNF306) expression in gastric carcinoma. Anticancer Res 2020 ; 40(1) : 81–6.

5）Masuda T, Mittal SK, Kovacs B, Smith MA, Walia R, Huang JL, Bremner RM. Foregut function before and after lung transplant. J Thorac Cardiovasc Surg 2019 ; 158(2) : 619–29.

6）Takahashi K, Mine S, Kozuki R, Toihata T, Okamura A, Imamura Y, Watanabe M. Ivor–Lewis esophagectomy for patients with squamous cell carcinoma of the thoracic esophagus with a history of total pharyngolaryngectomy. Esophagus 2019 ; 16(4) : 382–5.

7）Takahashi K, Watanabe M, Kozuki R, Toihata T, Okamura A, Imamura Y, Mine S, Ishizuka N. Prognostic significance of skeletal muscle loss during early postoperative period in elderly patients with esophageal cancer. Ann Surg Oncol 2019 ; 26(111) : 3727–35.

8）Ryu S, Suwa K, Kitagawa T, Aizawa M, Ushigome T, Okamoto T, Eto K, Yanaga K. Real–time fluorescence vessel navigation using indocyanine green during laparoscopic colorectal cancer surgery. Anticancer Re 2019 ; 39(6) : 3009–13.

9）Kawahara H, Hiramoto Y, Takeda M, Matsumoto N, Misawa T, Yanaga K. Anthropometric assessment after proctocolectomy due to ulcerative colitis. In Vivo 2019 ; 33(1) : 239–43.

10）Takeda M, Kawahara H, Ogawa M, Suwa K, Eto K, Yanaga K. Reevaluation of preoperative chemoradiotherapy for clinical T3 lower rectal cancer : a multicenter collaborative retrospective clinical study. Anticancer Res 2019 ; 39(6) : 3047–52.

11）Hiramoto Y, Kawahara H, Matsumoto T, Takeda M, Misawa T, Yanaga K. Preoperative neutrophil–lymphocyte ratio is a predictor of high–output ileostomy after colorectal surgery. Anticancer Res 2019 ; 39(6) : 3265–8.

12）Ishida K, Kawahara H, Hiramoto Y, Takeda M, Misawa T, Yanaga K. Intestinal contents stayed after discharge as low anterior resection syndrome. Clin Oncol Res 2019 ; 2(4) : 1–4.

13）Matsumoto T, Kawahara H, Hiramoto Y, Takeda M, Misawa T, Yanaga K. Spontaneous perforation of sigmoid colon due to chronic constipation. Surgery, Gastroenterology and Oncology 2019 ; 24(1) : 45–7.

14）Eto S, Kawahara H, Matsumoto T, Hirabayashi T, Omura N, Yanaga K. Preoperative neutrophil–lymphocyte ratio is a predictor of bowel obstruction due to colorectal cancer growth. Anticancer Res 2019 ; 39(6) : 3185–9.

15）Neki K, Eto K, Kosuge M, Ohkuma M, Ito D, Take-

da Y, Yatabe S, Sugano H, Yanaga K. Identification of the risk factors for recurrence of stage Ⅲ colorectal cancer. Anticancer Res 2019 ; 39(10) : 5721-4.

16) Futagawa Y, Yanaga K, Kosuge T, Suka M, Isaji S, Hirano S, Murakami Y, Yamamoto M, Yamaue H. Outcomes of pancreaticoduodenectomy in patients with chronic hepatic dysfunction including liver cirrhosis : results of a retrospective multicenter study by the Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery. J Hepatobiliary Pancreat Sci 2019 ; 26(7) : 310-24.

17) Kitamura H, Fujioka S, Hata T, Misawa T, Yanaga K. Segment Ⅳ approach for difficult laparoscopic cholecystectomy. Ann Gastroenterol Surg 2019 ; 4(2) : 170-4.

18) Kumagai Y, Fujioka S, Hata T, Misawa T, Kitamura H, Furukawa K, Ishida Y, Yanaga K. Impact of bile exposure time on organ/space surgical site infections after pancreaticoduodenectomy. In Vivo 2019 ; 33(5) : 1553-7.

19) Marukuchi R, Furukawa K, Iwase R, Yasuda J, Shiozaki H, Onda S, Gocho T, Shiba H, Yanaga K. Risk factors for deterioration of remnant liver function after hepatic resection for hepatocellular carcinoma. Anticancer Res 2019 ; 39(10) : 5755-60.

20) Horiuchi T, Haruki K, Shiba H, Sakamoto T, Saito N, Shirai Y, Iwase R, Fujiwara Y, Yanaga K. Assessment of outcome of hepatic resection for extremely elderly patients with a hepatic malignancy. Anticancer Res 2019 ; 39(11) : 6325-32.

21) Saito N, Uwagawa T, Hamura R, Takada N, Sugano H, Shirai Y, Shiba H, Ohashi T, Yanaga K. Prevention of early liver metastasis after pancreatectomy by perioperative administration of a nuclear factor-κB inhibitor in mice. Surgery 2019 ; 166(6) : 991-6.

22) Yokoyama-Mashima S, Yogosawa S, Kanegae Y, Hirooka S, Yoshida S, Horiuchi T, Ohashi T, Yanaga K, Saruta M, Oikawa T, Yoshida K. Forced expression of DYRK2 exerts anti-tumor effects via apoptotic induction in liver cancer. Cancer Lett 2019 ; 451 : 100-9.

23) Yasuda J, Okamoto T, Onda S, Fujioka S, Yanaga K, Suzuki N, Hattori A. Application of image-guided navigation system for laparoscopic hepatobiliary surgery. Asian J Endosc Surg 2020 ; 13(1) : 39-45.

24) Furukawa K, Onda S, Hamura R, Taniai T, Marukuchi R, Shiba H, Tsukinaga S, Sumiyama K, Yanaga K. Predictive factors and surgical outcomes of stent dysfunction after preoperative endoscopic biliary stenting in patients who underwent pancreaticoduodenectomy. J Laparoendosc Adv Surg Tech A 2020 ; 30(3) : 256-9.

25) Furukawa K, Shiba H, Hamura R, Haruki K, Fujiwara Y, Usuba T, Nakabayashi Y, Misawa T, Okamoto T, Yanaga K. Prognostic factors in patients with recurrent pancreatic cancer : a multicenter database analysis. Anticancer Res 2020 ; 40(1) : 293-8.

## Ⅱ. 総　説

1) 矢野文章, 三森教雄. 【新 手術記録の書き方】食道の手術　GERD や食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下手術. 消外 2019 ; 42(5) : 528-32.

2) 矢野文章, 小村伸朗, 坪井一人, 星野真人, 山本世怜, 秋元俊亮, 増田隆洋, 三森教雄, 柏木秀幸, 矢永勝彦. 【食道の炎症を視る】逆流性食道炎　難治性逆流性食道炎の特徴と治療. 消内視鏡 2019 ; 31(8) : 1158-61.

3) 髙橋慶太, 大竹玲子, 堀　創史, 問端　輔, 上月亮太郎, 岡村明彦, 今村　裕, 渡邊雅之. 【「縫合不全!!」を防ぐ】食道　頸部食道胃管吻合　器械吻合（三辺外翻三角吻合）. 臨外 2020 ; 75(2) : 157-60.

4) 三澤健之. Reduced Port Surgery　制限克服のための達人からの提言　RPS による脾摘術. 臨外 2019 ; 74(8) : 991-8.

5) 三澤健之. 【すぐに使える周術期管理マニュアル】術式別の術前・術中・術後管理　その他　脾臓摘出術. 臨外 2019 ; 74(11) : 202-5.

6) 藤岡秀一, 三澤健之. 【胆石症治療の現状】TANKO, RPS, NOTES 胆摘術. 医事新報 2019 ; 4946 : 28-31.

7) 薄葉輝之, 伊藤隆介, 小川匡市, 河野修三, 吉田和彦, 矢永勝彦. 膵頭十二指腸切除術に対する ERAS の導入. 癌の臨 2019 ; 64(4) : 279-84.

8) 北村博顕, 三澤健之, 畑　太悟, 藤岡秀一. 【内視鏡外科手術における思わぬ合併症と対応法】腹腔鏡下胆道手術における吻合の工夫とトラブルへの対応. 外科 2019 ; 81(13) : 1349-54.

## Ⅲ. 学会発表

1) Shiozaki H, Gocho T, Nakashima K, Marukuchi R, Shirai Y, Yasuda J, Furukawa K, Onda S, Shiba H, Ishida Y, Yanaga K. (Poster) Laparoscopic splenectomy for nodular and cystic lesions in the spleen. SAGES 2019 (Society of American Gastrointestinal Endoscopic Surgeons Annual Meeting). Baltimore, Apr.

2) Imakita T, Suzuki Y, Ohdaira H, Urashima M. (Poster) Colonoscopy-assisted percutaneous sigmoidopexy (CAPS) : a novel, simple, safe, and effi-

cient treatment for inoperable cases with sigmoid volvulus. SAGES 2019（Society of American Gastrointestinal Endoscopic Surgeons Annual Meeting）. Baltimore, Apr.

3）Kobayashi Y, Ohdaira H, Kaji M, Suzuki N, Narihiro S, Hata T, Hoshimoto S, Yoshida M, Horiguchi J, Yamanouchi E, Kitajima M, Suzuki Y.（Poster）Intraoperative choledocholithotomy with cholecystectomy -A new technique for choledocholithiasis-. SAGES 2019（Society of American Gastrointestinal Endoscopic Surgeons Annual Meeting）. Baltimore, Apr.

4）Osawa Y, Kawai H, Yoshio S, Sakamoto Y, Shimagaki T, Mori T, Matsuda M, Kanto T.（Poster）Liver congestion promotes hepatocellular carcinoma development through angiogenesis. DDW（Digestive Disease Week）2019. San Diego, May.

5）Ishikawa Y, Nishikawa K, Takahashi K, Kurogochi T, Yuda M, Tanaka Y, Matsumoto A, Tanishima Y, Mitsumori N, Yanaga K.（Oral）Indication and feasibility of microvascular anastomosis in esophageal reconstruction after esophagectomy. DDW（Digestive Disease Week）2019. San Diego, May.

6）Ishida Y, Yanaga K.（Symposium1：How to Treat SSI Effectively）Our preoperative strategy for prevention of SSI. The 2nd SIS-AP（Surgical Infection Society Asia Pacific）International Conference. Seoul, July.

7）Masuda T, Yano F, Omura N, Tsuboi K, Hoshino M, Yamamoto S, Akimoto S, Sakashita Y, Fukushima N, Kashiwagi H, Yanaga K.（Oral）Heller myotomy with Dor fundoplication versus peroral endoscopic myotomy（POEM）for achalasia. 15th Annual Academic Surgical Congress. Florida, Feb.

8）岡本友好，矢永勝彦，兼平　卓，恩田真二，安田淳吾，二川康郎，阿部恭平，大木隆生，鈴木直樹，服部麻木.（サージカルフォーラム 18：肝臓－手術手技）イメージガイド型ナビゲーションシステムの新たな展開－真のナビゲーションに向けて提示から指示へ－. 第 119 回日本外科学会定期学術集会．大阪，４月.

9）小菅　誠，矢永勝彦，衛藤　謙，大熊誠尚，伊藤大介，武田泰裕，谷田部沙織，佐々木茂真，大木隆生.（サージカルフォーラム 84：大腸－悪性－１）大腸癌取扱い規約第 9 版における主リンパ節転移（N3）の長期予後に及ぼす意義：当院における stage Ⅲ大腸癌 381 例による検証．第 119 回日本外科学会定期学術集会．大阪，４月.

10）増田隆洋，矢永勝彦，矢野文章，坪井一人，星野真人，山本世怜，秋元俊亮，小村伸朗，柏木秀幸，大木隆生，Mittal S.（サージカルフォーラム 91：食道－全般）胃食道逆流症の末期肺疾患患者における肺移植後の食道運動機能の改善と逆流防止手術の適応．第 119 回日本外科学会定期学術集会．大阪，４月.

11）二川康郎，阿部恭平，兼平　卓，岡本友好，矢永勝彦.（ワークショップ 11：【肝胆膵】肝胆膵外科手術における Navigation Surgery の意義と今後の展望）ICG 蛍光法による胆膵癌における navigation surgery ～術中領域リンパ節同定と郭清～．第 74 回日本消化器外科学会総会．東京，７月.

12）丸口　塁，古川賢英，白井祥睦，安田淳吾，塩崎弘憲，恩田真二，後町武志，柴　浩明，石田祐一，矢永勝彦.（ワークショップ 32：【肝胆膵】総胆管結石治療のベストプラクティス）当院における胆管炎併存胆嚢内結石症の治療方針．第 74 回日本消化器外科学会総会．東京，７月.

13）小村伸朗，矢野文章，坪井一人，星野真人，山本世怜，秋元俊亮，増田隆洋，柏木秀幸，矢永勝彦.（ワークショップ５：【食道】高度食道裂孔ヘルニアに対する内視鏡外科手術の工夫）高度食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下修復術における工夫と治療成績．第 74 回日本消化器外科学会総会．東京，７月.

14）西川勝則，石川佳孝，高橋慶太，黒河内喬範，湯田匡美，田中雄二朗，松本　晶，谷島雄一郎，三森教雄，矢永勝彦.（パネルディスカッション１：【食道】食道癌手術における再建の best practice）食道切除再建術における術中胃管血流評価法の比較（Thermal Imaging vs. ICG 蛍光法）. 第 74 回日本消化器外科学会総会．東京，７月.

15）矢野文章，小村伸朗，坪井一人，星野真人，山本世怜，秋元俊亮，増田隆洋，三森教雄，柏木秀幸，矢永勝彦.（ワークショップ５：【食道】高度食道裂孔ヘルニアに対する内視鏡外科手術の工夫）腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア修復術における治療戦略．第 74 回日本消化器外科学会総会．東京，７月.

16）秋元俊亮，矢野文章，小村伸朗，増田隆洋，山本世怜，星野真人，坪井一人，柏木秀幸，三森教雄，矢永勝彦.（ワークショップ 25：【総論】若年者の消化器外科手術における QOL 改善の工夫）若年者の食道アカラシアに対する腹腔鏡下 Helle-Dor 手術の治療成績．第 74 回日本消化器外科学会総会．東京，７月.

17）谷田部沙織，衛藤　謙，春木孝一郎，柴　浩明，小菅　誠，大熊誠尚，伊藤大介，武田泰裕，佐々木茂真，矢永勝彦.（ワークショップ 23：【全般】消化管外科領域における新規バイオマーカー）大腸癌切除例における Systemic immune-inflammation ndex による予後予測．第 74 回日本消化器外科学会総会．東京，７月.

18）矢野文章，小村伸朗，坪井一人，星野真人，山本世怜，秋元俊亮，増田隆洋，福島尚子，三森教雄，柏木秀幸，矢永勝彦.（ワークショップ 28：食道良性疾患

に対する低侵襲治療）胸痛を伴うアカラシアに対する食道筋層全周切開の有用性について．第32回日本内視鏡外科学会総会．横浜，12月．

19）藤崎宗春，三森教雄，北澤征三，増田隆洋，秋元俊亮，湯田匡美，渡部篤史，谷島雄一郎，矢野文章，西川勝則，矢永勝彦．（ワークショップ29：残胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術）残胃癌に対する腹腔鏡下手術の検討－開腹手術と比較して－．第32回日本内視鏡外科学会総会．横浜，12月．

20）三森教雄．（パネル討論会18：上手にインフォームドコンセントをしましょう）上手にインフォームドコンセントしましょう．第6回日本医療安全学会学術総会．東京，3月．（インターネット会議）

## Ⅳ．著　　書

1）三澤健之．2章：脾臓　1．脾臓摘出術（腹腔鏡下）．山本雅一編．消化器外科手術　肝臓・脾臓：標準術式をイラストと動画で学ぶ．東京：学研メディカル秀潤社，2019．p.158-67.

2）河原秀次郎．便秘編　Q28．専門的機能検査ではどのようなものがあり，何を評価するのか？　Q30．外科治療の適応と治療法は？　中島　淳，前田耕太郎編著．かかりつけ医のための便秘・便失禁診療Q&A．東京：日本医事新報社，2019．p.98-100，106-8.

3）河原秀次郎．第3章：便秘症診療の実践～これができればあなたもエキスパート！～　A．診療現場で気になるギモンにエキスパートが答えます！　治療編　6．外科的治療が必要なケースは？　どのような手術をするのですか？　中島　淳編．なぜ？　どうする？がわかる！　便秘症の診かたと治しかた．東京：南江堂，2019．p.86-7.

## Ⅴ．そ の 他

1）Taniai T, Onda S, Sato S, Shiba H, Sakamoto T, Yanaga K. Hepatic epithelioid hemangioendothelioma : difficult differential diagnosis from angiosarcoma. Case Rep Gastroenterol 2020 ; 14(1) : 56-62.

2）Onda S, Shiba H, Sakamoto T, Furukawa K, Gocho T, Yanaga K. Pulmonary embolism in a donor of living donor liver transplantation. Case Rep Gastroenterol 2019 ; 13(2) : 258-64.

3）Tsunematsu M, Haruki K, Sakamoto T, Uwagawa T, Shiba H, Yanaga K. Radical resection of an initially unresectable intrahepatic cholangiocarcinoma after chemotherapy with using gemcitabine, cisplatin, and S-1 : report of a case. Surg Case Rep 2019 ; 5(1) : 103.

4）Hamura R, Furukawa K, Sakamoto T, Gocho T, Shiba H, Yanaga K. Eradication of Helicobacter pylori in a living donor liver transplant recipient with immunosuppressive therapy of cyclosporine A : a case report. Transplant Proc 2019 ; 51(3) : 1006-7.

5）Taniai T, Haruki K, Matsumoto M, Sakamoto T, Shiba H, Yanaga K. Incidental abdominal lymph node metastases from a known breast cancer in resected specimen of invasive pancreatic ductal adenocarcinoma : report of a case. Int Cancer Conf J 2019 ; 8(4) : 190-4.